

「アケハマン」が行く

かりとりもさくの会
コーディネーター
川崎 昇
(西予市)



かりとりもさくの会と申します

「お名前の由来は何ですか?」と来るから、いわゆる「つかみ」はOKである。私たちは「地域おこしの実りをいかにして得るか?」を模索している団体です」と返せば大抵の方にご理解いただけるからだ。

実にありがたい名前。本会は、平成23年に、西予市は明浜町狩江地区で結成された。小職は縁あって昨年からは名ばかりコーディネーターとして末席を汚している。

真綿で首を絞めに来る



名刺

本会が結成された頃、わが明浜町の狩江地区は約980名の人口であったが、今年四月までに約130人減(850人)と、この四年間で一気に過疎化が進んだ。

追い打ちをかけるように、わが地区では希望の灯台ともいえる狩江小学校(児童数32名)が、本年度末で廃校決定となり、その活用も地域に突き付けられている。

国立社会保障・人口問題研究所



狩江小学校

の「地域別将来推計人口(平成25年度版)」によれば、わが地区の人口は十四年後に600人を切る。限界集落、そして消滅の恐怖は、着実に忍び寄る。人口減少に転じた日本列島には真綿で首を絞められたような集落が津々浦々に現出していくのだ。

地域おこし戦隊「アケハマン」

神奈川県横須賀市に「市立明浜小学校」がある。我が町名と同じ「明浜」を冠する児童数八百名のマンモス校だ。

同校の存在に気付いたのは、一人の西予市職員であった。彼は、とある職員研修会の席で、たまたま同小学校の人脈に行き着いたらしい。

その時、自分たちの住む地域名「あけはま」こそがオンリーワンだと確信したという。

それからのは、彼「アケハマン」という文字をプリントしたパーカーを作成し、自ら着して販売するなど、地域への思いを文字どおり身に帯



アケハマンパーカー

して仲間を増殖させ続けた。結果、わずかの間に我が町内は、ヒーロー戦隊よろしく「アケハマン」を着した人が増えていっ

たのである。本会も、アケハマンたちに焼き付けられるように明浜小学校との交流を決意した。そして、同校の教職員を当地にお迎えして今後の交流を検討していただき、また当地からも同小学校を訪問してその可能性を探った結果、更なる交流を継続して行くことで一致をみた。

それは、一地方の「アケハマン」が都市に飛び火した瞬間でもあった。

なお、同小学校でも「AKEHAMANパーカー」を作成していたという偶然も重なって、今や「アケハマン」は西予市だけで語ることはできなくなっている。

八月は「カッパde護衛艦カレー」

我ら西予市のアケハマンたちが住む明浜町では、毎年八月に「カッパMATURI

RI」という一大イベントを開催している。

その集客規模は、昨年度実績で約6千人。町民人口を悠に凌駕する人たちに楽しんでいただいております。

今年も、当イベントに横須賀の小学校PTAをお招きして、「護衛艦カレーNO・1グランプリ」に輝いたカレーを販売する計画を密かに練っている。

TVのニュースでご記憶の方もあると思うが、護衛艦「グランプリ」は、この四月に横須賀で行われたもので、一五隻の護衛艦が参加。各艦船で実際に供しているカレーを一万人超の一般来場者が実食して投票し、NO・1カレーが選ばれた。我々アケハマンは、地元の狩江小学校PTAとも協力して、このカレーを再現販売する計画である。既に、双方のPTAにもアケハマンが広がるとうとしている。



カッパMATURI 2013ポスター

アケハマンが行く

一人が始めた小さなアケハマンの燈火が周囲に希望を点じて行く。

その灯は、地域住民に伝播し、今や行政の枠を超えて都市へ拡散しようとしている。

やがて地域の運命さえも変えるに違いない。

いや、地域は既にゆつくりと運命の進路を変え始めているが目に見えないだけだ。

アケハマンが動けば地域が変わる。

さあ、行くぞ！

今日もアケハマンに「ムオウ・変身！」



護衛艦カレーグランプリポスター